



地域資源を生かしたつくば市の取り組み

つくば市長 市原 健一



つくば市の概要



つくば市の人口、世帯

- ・人口 216,143人(H23.1.1)
- ・世帯 約8.6万戸



つくば市の概要



つくば市の面積
面積 284.07km²
(東西:14.9km 南北:30.4km)
※茨城県第4位の面積

業務機能が集積した
つくばセンター地区



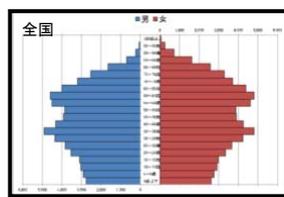
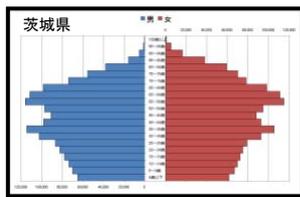
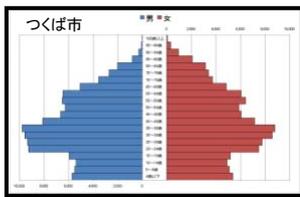
豊かな自然が残る
周辺部

—東京山手線区域と比較すると—

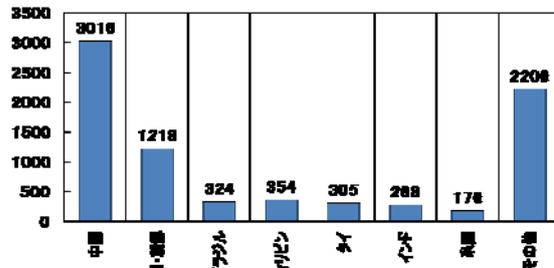
TSUKUBA CITY つくばから世界へ

3

つくば市の人口構成



(出所:国勢調査、茨城県常住人口調査より作成) 2009年10月1日現在)



つくば市の外国人登録数7,867人124カ国
(2010.12.28現在)



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

4

つくば市の歴史



筑波山は美しい姿から富士山とも対比され、「西の富士、東の筑波」と並び称される。優美な姿は多くの歌人を魅了し「万葉集」や「小倉百人一首」などに数多く歌われている。日本百名山、日本百景、日本の地質100選に選定されている。



小田城跡

小田にあった小田城は、鎌倉時代から戦国時代末まで、この地方に勢力を張った小田氏の居城で、特に南北朝時代に南朝方の関東における拠点として名高い。

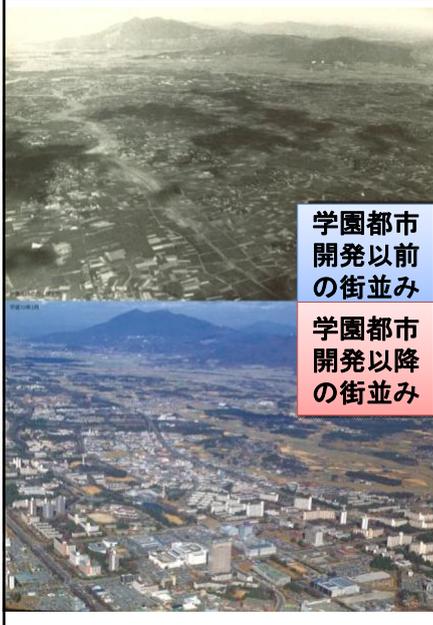


国指定文化財 史跡
平沢官衙遺跡

平沢官衙は、奈良時代から平安時代にかけて造営された常陸国筑波郡の郡衙(役所)の一部で、その重要性から国の史跡となっている。郡衙には、郡衙政庁、正倉、館、厨などの建物があり、平沢官衙跡はこの中の正倉部分と云われている。



つくば市の歴史



学園都市
開発以前の
街並み
学園都市
開発以降の
街並み



1968年起工式

1963年科学技術の振興と国の研究拠点を集中移転することで、東京の過密化を防ぐため、研究学園都市の建設について閣議了解。



1985年 科学万博つくば'85

1985年国際科学博覧会(EXPO'85)開催「TSUKUBA」の名を国内外に広くアピールした。テーマ:人間・居住・環境と科学技術
総入場者数:約2033万人



つくば市の歩み

1950年代まで



農業中心の田園環境

1970年代～1990年代



科学万博開催による知名度向上
民間研究機関の立地



研究機関の集団移転
研究機関で働く住民の転入

2000年代～



充実した都市機能
豊かな自然
知的な環境

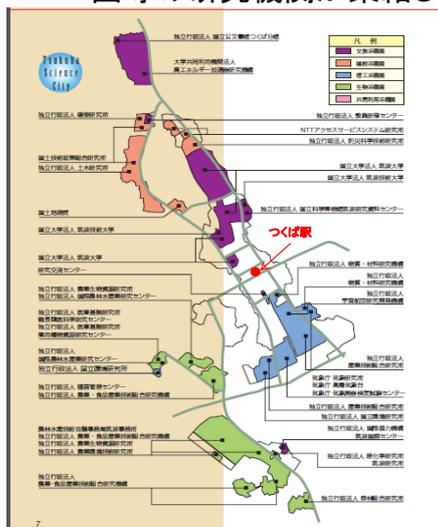


TSUKUBA CITY つくばから世界へ

7

研究機関の集積

国等の研究機関が集結した国家を代表する科学技術拠点都市



筑波研究学園都市は現在、筑波大学、産総研、JAXA筑波宇宙センターなどの32の国等の研究機関が集積し、民間の研究等も含めると300を超える研究機関や企業が立地し、約22000人の研究者を擁する、我が国最大の研究開発拠点。

(出所：筑波研究学園都市(国土交通省))



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

8

研究機関の集積

- | | |
|--|--|
| 1 筑波北高工業団地
所在地 つくば市和台・北原
面積 140.8ha
立地企業 16 (※詳細) | 6 上大島工業団地
所在地 つくば市上大島
面積 63.8ha
立地企業 23 (※主要) |
| 2 つくばテクノパーク大塚
所在地 つくば市大久保
面積 41.4ha
立地企業 10 (※市内を移集) | 7 つくばカタカタの工業団地
所在地 つくば市外田
面積 38.5ha
立地企業 8 (※市内を移集) |
| 3 つくばリサーチパーク別荘
所在地 つくば市観音台
面積 5.7ha
立地企業 8 (※市内を移集) | 8 つくばテクノパーク南郷
所在地 つくば市緑ヶ原
面積 69.0ha
立地企業 25 (※市内を移集) |
| 4 筑波南高工業団地
所在地 つくば市御幸が丘
面積 101.5ha
立地企業 13 (※詳細) | 9 東京台研究団地
所在地 つくば市東光台
面積 89.0ha
立地企業 24 (※市内を移集) |
| 5 つくばテクノパーク北
所在地 つくば市常崎・上野
面積 65.7ha
立地企業 6 (※市内を移集) | |

※立地企業数は、平成20年4月現在 合計133企業
()内は事業主体



筑波南高工業団地



筑波北高工業団地



筑波研究学園都市は首都圏における業務核都市として、また国内外における研究開発拠点として、多くの民間企業が進出しており、それに合わせて工業団地等の整備も進められている。



アステラス製薬御幸が丘研究センター



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

充実した都市機能



市の中心部を通る
ペDESTリアンデッキ

ペDESTリアンデッキは総延長48kmにもなる自転車歩行者専用道。自動車と分離されており、安全な移動が可能であり、緑豊かな道路となっている。



充実した商業施設

北関東最大級のショッピングモールであるイースつくばやクロススクエア等商業施設が各所にあり、買い物が大変便利な環境となっている。



業務機能が集積した
つくばセンター地区

ライトオン本社の立地、常陽銀行や筑波銀行の本社機能が移転するなど、企業の立地、業務機能の集積が進んでいる。



つくばエクスプレス

つくば駅から秋葉原駅までを最短45分で結ぶ。つくばと東京都心を直結することにより、首都圏北東部地域の交通体系の整備や常磐線の混雑緩和を図り、沿線地域の活性化及び快適な居住エリアの創出を促進し、人・物・情報の交流を密接にしている。



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

豊かな自然環境



つくば道(日本の道100選)
神郡の集落の街並み

神郡はもともと農業中心の集落だったが、筑波参詣が盛んになるとともに参道沿いに店を出して商売を行う半農半商の集落として発展した。土蔵造りの商家が道の両側に並ぶ。



つくばりんりんロード
(自転車専用道)

1987年に廃線となった筑波鉄道の跡地に作られたサイクリングロード。自動車と区別された道で快適なサイクリングが楽しめる。



宝きょう山
(関東の富士見100景)

古くは三村山と呼ばれ、山頂に山名の由来となった宝きょう印塔が建立されて以来、宝篋山と呼ばれるようになった。宝きょう山は小田山とも呼ばれ、近年登山道が整備され、ハイキングが楽しめる山となっている。



宮本大蔵

宮本大蔵は、江戸時代後期に建てられた宮本家の旧穀物蔵で、国の登録有形文化財に指定されている。現在は、改修され、コンサートホールなど芸術文化の交流拠点として活用されている。

科学の街ならではの知的な環境



研究機関等
の一般公開

科学技術についての理解と関心を深めるため、毎年4月中旬の科学技術週間に筑波宇宙センター等40以上の研究機関が一般公開されている。



質の高い文化施設
つくばノバホール

市民劇団から国際音楽祭まで使われる日本有数の音響効果を持つ音楽ホールであり、つくば国際音楽祭の会場となっている。設計は磯崎新。



つくばサイエンスツアーバス

つくばサイエンスツアーバスは、市内の8つの研究施設を巡る、1日乗降自由の循環バス。



つくば国際会議場
エポカルつくば

年間50件を超える国際会議や、その他様々な会議・研修・採用活動・イベントなどがつくば国際会議場で行われている。2007年・2008年における国際会議開催件数は日本第4位(会議専用施設では日本第2位)

つくばスタイル



都市 Urban 「充実した都市機能」による快適な暮らし

- ・洒落た雰囲気ですショッピングや飲食、娯楽など、多彩な楽しみを味わえる暮らし
- ・ITを活用した先進的で快適な業務環境と暮らし
- ・充実した教育、福祉、医療環境に包まれた暮らし
- ・鉄道から自転車まで、多様な交通手段が利用できる快適で便利な暮らし

自然 Nature 郊外ならではの潤いと楽しさ「豊かな自然」のある暮らし

- ・多様なライフスタイルの楽しめるゆとりある暮らし
- ・豊かな自然環境をいかしたアウトドアライフ
- ・市民農園など「農」と触れあえ、地産地消を実現できる暮らし

知 Intelligence 「科学の街ならではの知的な環境

- ・洗練された文化や芸術に触れあえる暮らし
- ・つくばカルチャー(市民レベルの文化、芸術、スポーツ、国際交流活動など)を楽しむ暮らし
- ・知識人や外国人など、多彩な人々が育んだハイセンスな暮らし



これらを楽しみながら、人々が自分の希望に合わせて住み、働き、学び、遊ぶライフスタイル



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

13

つくば市における最近の主な動き

- つくば3Eフォーラム
- つくば環境スタイルの実現に向けて
 - ・クリーンエネルギーを活用した低炭素交通社会システム共同実証プロジェクト
 - ・街路照明スマート化事業
- つくばモビリティロボット実験特区
- ICTを活用した新しいまちづくり
 - ・つくば市、筑波大学、インテル社地域連携事業
 - ・ツイッターの活用(ツイッターズ in つくば)
- 教育日本一への取り組み
- 国際戦略総合特区



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

つくば3E(環境・エネルギー・経済)フォーラム

2007年：筑波大学を中心に研究機関・行政が参加



連携による低炭素なエコシティつくばモデルの構築が目標

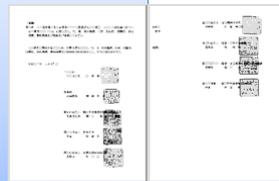
2007年12月

『2030年 つくばのCO2排出50%削減を目指す』
【つくば3E宣言2007】



【参加機関】

筑波大学、産業技術総合研究所、国立環境研究所、
物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、
茨城県、つくば市



2008年6月

国土技術政策総合研究所、都市再生機構茨城地域支社を加え、
「つくば市環境都市の推進に関する協定書」を締結



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

15

つくば環境スタイル



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

16

低炭素社会のまちづくり

コンセプト

市民,企業,大学・研究機関,
行政協働の実践体制

CO₂削減の革新技術の
開発・実証実験

統合

つくば
環境
スタイル

国内・世界へ発信

削減目標

現状

約10t/人
(年間)

2030年

つくばの排出量を
半減

2050年

世界の排出量の
半減に貢献



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

17

低炭素実験タウンの取り組み

2008

2010

2011

2030

【実験タウンA】

～全員参加
モニタリング・シティ～

- ・レジ袋削減 (H20～)
- ・デマンド型バス (H22～)
- ・次世代環境教育カリキュラム
- ・つくば環境IEC運動
- ・廃食用油リサイクル (H21～)



【実験タウンB】

～TX沿線低炭素
環境モデルタウン～

・カーシェアリング (EV) 等
伊藤忠商事と連携 (H22～)



・モビリティロボットの
公道実験 (H23～)



・自転車ラックバスの
実証実験 (H22～)



【実験タウンC】

～近未来エネルギー～

・藻類バイオマス燃料の利活用



・水素供給システム
・LCCM住宅



・日本型スマートグリッド
(水素+直流連携+太陽光)



・緑住農一体型住宅
(H23～)



・TX沿線の低炭素都市づくり
都市間連携



【実験タウンD】

～低炭素技術
ショーケース～

・研究機関によるこ
れから生まれる最
先端技術検討
(ワーキンググルー
プ) など



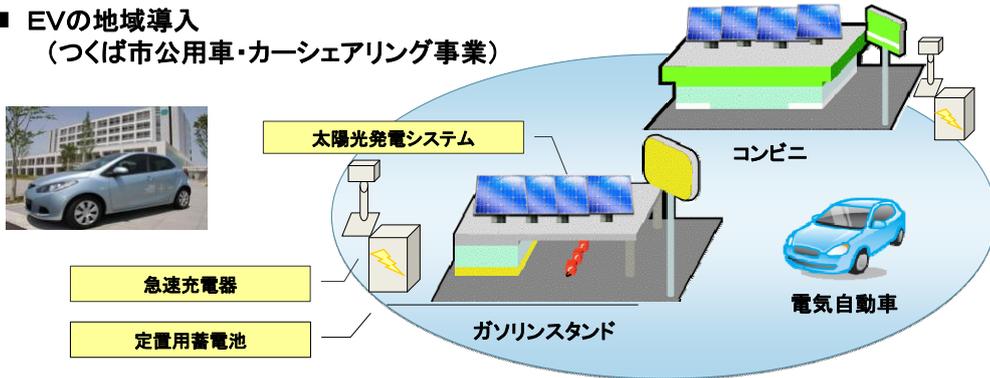
TSUKUBA CITY つくばから世界へ

18

クリーンエネルギーを活用した 低炭素交通社会システム共同実証プロジェクト

24H電力利用のコンビニGS等でエコ・ビジネスモデルを確立

- 蓄電池の2次利用
- 再生可能エネルギーで充電(太陽光発電システム等)
- EVの地域導入
(つくば市公用車・カーシェアリング事業)



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

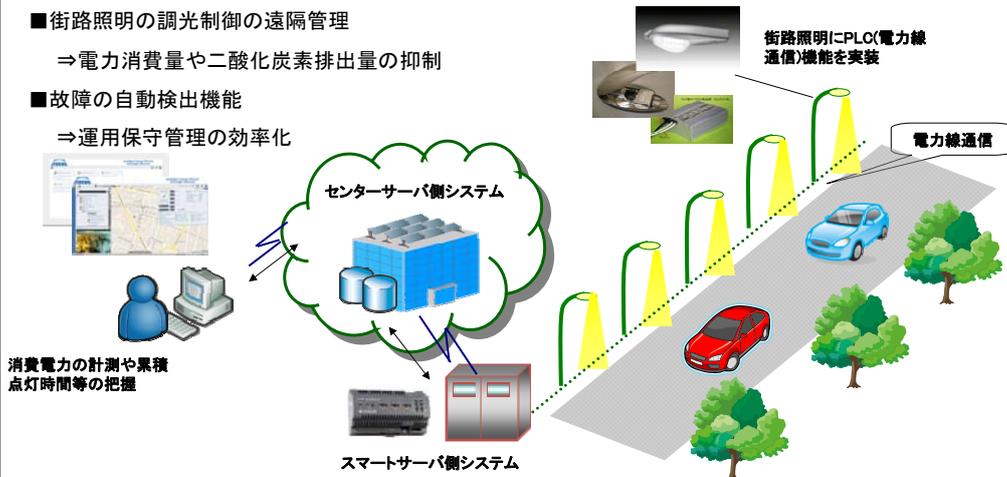
19

環境省「平成23年度チャレンジ25地域づくり事業」

街路照明スマート化事業

LED+遠隔式調光システム: 中心市街地の道路2路線、公園1箇所を対象に、約180本

- 街路照明の調光制御の遠隔管理
⇒ 電力消費量や二酸化炭素排出量の抑制
- 故障の自動検出機能
⇒ 運用保守管理の効率化



TSUKUBA CITY つくばから世界へ

20